

NPO 法人 ふろんていあタウン工房

ふろタン通信

2020年2月18日 広報センター No. 34



◆ふろタン新春インタビュー

ミャンマーとの絆「今泉記念ビルマ奨学会」

2019年12月16日付のふろタン通信33号で「新年の2020年に向けて第11回ふろタンインタビューを準備中です」と予告していましたが、**今泉清詞さんとティティレイさんのふろタン新春インタビューを1月17日に行いました。**

第二次世界大戦のインパール作戦に従軍しその時の体験から1989年に今泉記念ビルマ奨学会を立ち上げた今泉会長と、その奨学会の元奨学生で今は城西大学理学部客員教授で国際教育センター副所長のティティレイさん、埼玉県鶴ヶ島市の今泉会長のお宅に伺ったインタビューです。鶴ヶ島市が2020年東京五輪・パラリンピックのミャンマー選手団のホストタウンになったことなど、ミャンマーとの絆に繋がるのお話を色々とお聞きしました。



ホームページのインタビューコーナーに掲載しましたのでご覧ください。

ふろんていあタウン工房のホームページのトップには、「UR都市機構のワングル同好会の設立40周年記念で2013年3月ミャンマーチン州のピクトリア登山を実施、2014年6月16日に辺境の地での山の魅力を高める環境保全活動と山麓の村の生活を向上させる地域おこし活動を目指すNPO法人を設立した」と謳い、そして「目的を共有する団体との協力・連携して山と共に生きる地域づくりの友好交流ネットワークの形成を目指して活動を続けていきます」と宣言しています。

もうすぐ設立から6年になろうとしています。「ふろタン通信」の第1号発信が2014年2月で、8月発信の第4号でホームページ開設を伝えています。そして2014年12月10日の第1回「ふろタンインタビュー」で安彦隆さんと小野寺有菜さんに設立準備中の「ミンガラパー・ユネスコクラブ」の話をお伺いしました。

今年の新春インタビューでもう11回、**インタビューを通しての目的を共有する団体との交流ネットワーク形成は最初から今迄ずっと続いています。**

◆ふろタン技研プロジェクトチーム

二つの研究会の紹介「二都研」と「創生研」

2018年11月の通信27号での呼びかけで始まった**グループ団体賛助会員によるふろタン技研プロジェクトチーム結成**ですが、今後はより多くの方々・団体との連携による企画・活動を増やしていく予定です。

そんな視点に立って、本号ではふろタンスタッフも参加し長く続けてきている二つの研究会の活動を紹介したいと思います。

一つは2012年3月のミャンマーの建設省視察団の来日がきっかけになって誕生した**「二都物語研究会」通称「二都研」**です。2014年2月22日にふろんていあタウン工房設立準備室が出版した「フロンティアまちづくり読本」にスタート時のことが書かれており、そこには事務局URリンケージ・入江三宅となっていますが、現在は開発構想研究所・URJICAチームも加わった4社持ち回りで座長を置かずに進めてきています。スタートから5年半が過ぎた2018年2月20日に開催した「二都研」で**「二都物語研究会第30回記録誌」**を作成することにし、それ迄の研究会のあゆみを纏め、各メンバーからのメッセージも載せて4月24日発信しました。ホームページのふろタン技研コーナーVOL.0をご覧ください。

もう一つは2011年3月11日の東日本大震災から1年を迎えようとしていた2012年2月、東北の被災地で復興計画づくりに取り組んでいた都市計画コンサルタントの有志が集まり、被災地の復興まちづくりを支援する実践的なプランづくりに取り組もうと立ち上げた**「復興都市研究会」**で、被災地の復興に役立てる具体的な場を設定したモデルケーススタディなどを行って全日本土地地区画整理士会の会報にレポートを掲載したりしてきました。2017年度末まで通算すると34回の研究会を行い**「復興まちづくりレポート2017」**を纏めています。2018年度からは今迄の復興都市での取り組みを広く国土計画に役立てようと**「復興都市研」改め「創生研」**という名称にして研究会活動を継続しています。創生研活動はまだ具体的な対象地さがしの現地調査の段階ですが、写真は沼田市の次に訪れた湯河原(2020.2.6)、歴史を感じる「文学の小径」を歩いています。



事務局は半蔵門にある昭和(株)で座長はスタート時から一貫して松村忠雄さんが勤めておられます。創業100周年を目指す都市計画コンサルタント昭和にはお父上がインパールの行軍から帰還された方がお二人もおられ、その一人林茂雄さんには第8回ふろタンインタビューでお話を伺っています。

ミャンマーとの絆は不思議なところで繋がっていますね。